

# シンポジウム開催報告

## 農研機構シンポジウム 「九州沖縄で展開が期待される畜産業の新技术と開発方向」開催報告

平成27年10月23日(金)に農研機構シンポジウム「九州沖縄で展開が期待される畜産業の新技术と開発方向」をくまもと県民交流館パレアホールで開催しました。シンポジウムには、民間企業、JA、大学、県や市町村などから116名の参加がありました。

基調講演として九州農政局の平田慎一郎農政調整官より「九州地域における畜産の現状と課題」と題し、九州地域の大家畜の飼養動向、飼料生産の現状、畜産環境の状況とそれらの課題、行政施策について紹介がありました。その後、九州沖縄農研の成果として8課題を報告した後、総合討議を行いました。また、会場では発表以外の成果を紹介したポスターの掲示や放牧で肥育した牛のローストビーフの試食を行いました。

成果発表後の総合討議では、以下のような意見や提案がありました。

- ・少頭飼養の多い九州の特殊性から大規模化に向けた技術開発は必要だが、それによって小規模農家が見捨てられるようになってはならない。
- ・飼料作物育種の方向性として作付け体系の観点から目標を決めるのは良いことである。さらに複合経営での作付けを意識することも重要ではないか。
- ・気候要因も大切だが、土壌要因に対応する育種にも取り組んで欲しい。

- ・育成品種が環境攪乱にならないよう留意して欲しい。
- ・育種・栽培研究とも飼料が対象であるので、栄養価(TDN)を含めた評価をするべきではないか。
- ・自給飼料生産ではサイレージ化や乾草化によってビタミン類が失われていく。繁殖牛へ給与する場合には、これらの情報(どのくらいビタミンがあるのか)も整理していくべきではないか。
- ・焼酎粕給与では、液体飼料を普及するためには輸送などの問題についても解決する必要がある。
- ・放牧肥育は大規模では難しいので、小規模を対象として普及するのが良いのではないか。
- ・今後、F1(ホルスタイン種と黒毛和牛種の一代交雑種)の牛肉生産が増えてくるとされる。それに対する技術開発が必要ではないか。

これらを含め当日の総合討議やポスターでの意見交換で得られた情報は今後の技術開発に活かされることと思います。

最後に協賛の日本暖地畜産学会副会長より“個別技術をチームとして大家畜生産に導入しようとする姿勢に感銘を受けた。今後も継続を望む。”との挨拶で本シンポジウムを閉会しました。

【畜産草地研究領域 服部 育男】



シンポジウム会場の様子



成果発表後の総合討議

九州沖縄農業研究センター

ニュース No.53

平成27年12月21日発行

編集・発行

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構

九州沖縄農業研究センター広報普及室

〒861-1192 熊本県合志市須屋 2421

TEL.096-242-7780,7530 FAX.096-242-7543

公式ウェブサイト <http://www.naro.affrc.go.jp/karc/>